

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が、安心できる環境、地域に開かれたホーム」という理念の基に地域と共に利用者の暮らしを支えていくことを目指している。また、日々理念を念頭におき、介護を行っていくよう心がけている。	毎月の職員会議や申し送り時に理念に沿った支援が提供できているか確認している。職員は理念を共有し実践に努めている。新しく利用を開始する本人や家族には必ず重要事項と共に理念を説明し納得していただいている。玄関には運営規程を掲示し、来訪者にホームのあり方を公表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各行事への参加	区に加入し、地区の一軒として交流している。区の新年会と清掃活動などには所長が出向いている。地元出身の利用者に敬老会へのお誘いもかかり、ホームの敬老会には地域住民に声をかけ、一緒にお祝いをしている。住民からは野菜や柿などの差し入れが届いている。ハーモニカや大正琴のボランティアがホームの行事で演奏をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お楽しみ会では、ご近所の方にお知らせし利用者の方との交流を深めていけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、市の担当者や地域の方、利用者のご家族の方に現状の報告をし、要望等を話し合う。	家族(父等)で参加し、区長、民生委員、市介護保険担当者をメンバーに2ヶ月毎、偶数月に開催している。会議では利用者の状況や活動内容等を報告し、家族からの要望や市からの意見を頂いている。運動会や誕生祝など行事の日程を知らせることで家族が行事に参加できるようになり、家族の要望や市からの助言はホームの運営やサービス向上に活かされている。次回の開催日は会議の後でおおまかに決めていたが、後日、改めて各メンバーに文書で連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では制度的な面で指導を頂いたりしている。	研修のこと、書類や制度工の変更などで解らないことがあれば市の担当窓口を訪れ助言や相談に乗ってもらっている。介護認定更新や区分変更申請は家族からの依頼もあり代行している。認定調査員の訪問時も家族に代わり本人の様子を伝えている。市主催の感染症などの説明会には必ず出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを、職員全員で認識している。	契約書で身体的拘束その他利用者の行動を制限しない旨を謳っている。職員は身体的拘束の内容やそれによる弊害を認識しており、利用者が安心し、自由に生活できる環境づくりに努めている。外出傾向の利用者は現在いないが、時々、玄関に出て気分転換を図っている。車椅子使用者がおり、移乗による苦痛が生じないよう適宜姿勢を直している。市主催の研修が1月にあり、参加の予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ話し合いを行なっている。今後も理解を深め職員全員で虐待が起きない、起こさないよう細心の注意を払っている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用出来る様、職員は理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、ご本人・ご家族に事前に説明し不安や質問等を受け付け、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見が聞けるよう意見箱を設置している。個々で管理者がご本人・ご家族と話す場を作り施設改善の為に意見を聞いている。また運営推進会議では利用者のご家族に交代で出席して頂き意見交換している。	利用者の多くは自分の思いや意見を言葉で表すことができる。2名の方は話の内容を理解できるが会話は難しく、単語やイエス・ノーで意思を伝えている。家族の来訪は多い方で週2～3回、県外在住の方でも月に1回は見えている。担当の職員が本人の様子をホーム独自の様式(よっこらしょ!での御様子:生活全般・食事・入浴・その他)に書き込み、毎月、家族に報告している。家族の要望から行事を家族に知らせようになり、本人の誕生日に花束を持ってお祝いに駆けつけた家族や運動会に参加する家族もあって、にぎやかに親子交流が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を行ない意見を聞くようにしている。入所する利用者を決定する際にも職員の意見を聞き皆で話し合っている。	第4木曜日18時からの職員会議には代表者も出席して行われている。行事予定、利用者の状況に関する事、伝達研修などの他、日々の問題点を上げて活発に意見交換しており、前向きに検討する場となっている。参加できなかった職員には会議録を通し共有できている。所長との個別面談は必要に応じて行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ない、常に向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修等に参加できるように申し込み書を回覧するようにしている。研修に参加した場合には、全体会議で研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みが出来ていない。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しの出来る方には、話しを傾聴することを大切にし、出来ない方にはその人と向き合い不安や困っている事について把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を案内する等して、ご家族がリラックスした中で話しを聴けるようにしている。また聴取にならないよう聴く姿勢を大事に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや、不安な事に対して支援の提案・相談を繰り返していく中で必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態によりサービスを提供する事が大半の中、スタッフみんなで介護する側・される側をつくらないように努めている。利用者との会話で教えられたり、励まされたりすることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から頂く情報を大切に、またこちら側からも利用者の状態をお伝えし、一方通行にならないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の御希望・ご協力にて外泊・外出は自由に可能である。	馴染みの理美容院へ家族と一緒に掛けている利用者もいる。自宅近所の友人や知人、昔の職場仲間などの面会を受け、親交を深めている利用者もいる。遠方在住の家族が毎月来訪し住みなれた自宅へ本人と連れ立って帰ることもある。ホームとしては年末年始、お盆等の自宅への外出若しくは外泊を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	8名の利用者同士の関係は、それぞれ利用者同士で築いていくもので、職員は、それを十分把握していくよう心がけている。認知症のレベルによりコミュニケーションが困難な場合、孤立しないよう配慮している。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化などで医療機関に入院され契約終了になった場合には関係性はなくなっている。しかし、ご家族等が個別に相談にきた場合には、その都度対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	多くの利用者は思いや意向を伝えることができる。出来ない方は職員の問いかけの工夫(複数の選択肢の働きかけ)でイエス・ノーまたは片言の言葉で意思を表示している。基本的には5日～7日の体験入所を経て本入所としている。これによりホーム側は本人の理解が出来、家族は本人がホームの暮らしに馴染めるか見極めている。実際に家族は「体験入所」から判断しこのホームを選んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査・見学・家族の面会時など関係者よりお話を聞き、情報の把握をしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、本人の全体像を把握するよう努めている。出来ない面より出来ることを伸ばしていけるように全職員取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者会議でケアの課題を話し合い、より良いケアを提供できるよう努めている。また、状態が変化した際には、その都度見直しを行っている。	担当制をとっている。本人や家族の意向を聞き、受持ち担当者はケアマネージャーと他の職員の意見も加えながら施設サービス計画書を作成し本人家族に説明後、確認印を頂いている。毎月の職員会議後に評価し、問題がなければ3ヶ月後に見直しをしている。体調の変化などがあれば期間前でも見直しを行い、プランの修正または新たなものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護・看護記録を作成し全職員が情報を共有すると共に変化があった場合、随時カンファレンスを開いていくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者には看護師を中心となり医療連携体制を整えており、看取りも行っている。また通院や送迎等必要な支援も行なっている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回、運営推進会議を行っており、区長・民生委員の方にも入ってもらい協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診にお連れし、また利用者の健康状態に合わせて総合病院に受診する(家族の許可を得る)更に入居時には協力医療機関を必ず説明している。	利用前のかかりつけ医を継続しているが、利用者家族の希望で往診していただける医療機関に変更するケースもある。定期受診の付き添いは家族にお願いしているが、家族の都合で職員が代行することもある。協力クリニックの医師が2週間ごと往診している。往診日の午前中に診察予定の利用者の状態やバイタルをFAXしている。職員に2名の看護師がおり、利用者の健康管理や医療機関との連携もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日常の健康管理・服薬管理・医療機関との連絡体制も整えている。また職員の医療・健康管理・緊急時の判断力の向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には総合病院の病棟看護師と利用者の情報提供及び交換を行なっている。また退院後の生活の準備を整え、当施設での生活が継続できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアカンファレンス及び同意書・医師確認書等を記入し早い段階から家族に説明し、並行して医師からも説明を受ける。また看取りケアを行う際、意志・ご家族と職員とでカンファレンスを行なう。契約時延命治療は行わず看取りを行う説明をする。	利用契約時に「住み慣れた所で最期まで」というホームの方針を本人や家族に伝えている。状態が変わった時に「看取りケア指針」を改めて説明し、同意書を取り交わしている。一昨年は5名の方、昨年は1名の方の最期を家族と共に看取っている。家族からは「最期まで良く見て頂いてありがとうございます。」とお礼の言葉が伝えられている。看取り支援について職員の不安があっても看護師からの助言があり、日頃から緊急時対応についても話し合っているので落ち着いて関係者に連絡が出来る。職員と一緒に一部の利用者もお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の職員応援体制なども整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については、自治会でお願ひしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。	今年度は利用者を交えた避難訓練を検討しているが、まだ防災訓練が行なわれていない。夜勤者は定時に火元点検を実施している。火災時の通報手順が電話機から見やすい壁に掲示されている。地域には文書で防災時の協力依頼をしている。区長、民生委員、近所宅には口頭で協力をお願いしてある。防災設備として火災通報装置、消火器、煙探知機などを設置している。食料品、介護用品の備蓄も準備されている。	消防署の協力を得ながら今年度中に通報訓練や避難誘導訓練等を行われることを期待します。

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮する。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを職員皆でしないよう徹底している。	基本的には苗字や名前に「さん」付けで声掛けしているが、生活歴、職業なども配慮し本人が一番心地良さを感じる呼び方をしている。排泄や入浴支援は同姓支援を基本としている。男性が関わる時には「僕でいいですか」と確認もし、トイレ誘導は恥ずかしさを感じさせないように配慮している。プライバシーや一人ひとりの尊厳についての研修は入職時に行っているが、必要があれば個別に所長から話している。地域密着サービスの提供、地域に開かれたホームを掲げている事業所としての規定を設け個人情報保護に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者に合わせた声掛けをし、利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常のなかで本人が選びやすい場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるよう職員はお膳立てをしたり、不十分なところや乱れをさりげなく直している。本人の好みや意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るようにしている。旬の食材や新鮮な物を採り入れている。	食事準備には約半数の利用者が野菜の皮むき、カットなどを職員と一緒にしている。調理専門職員が配置されている。トロミ、極キザミ、常食と利用者に合わせて食形態で提供している。誕生日には本人の好きな食べ物がお祝いとして出されている。例年クリスマスのデコレーションケーキの飾りつけは利用者を中心になって行っている。毎日、10時に口の運動、16時に手指運動を行い、嚥下機能や日常生活動作の維持向上に取り組んでいる。食後は会話を楽しむ時間も充分にあり、ゆっくりとした食べ方の利用者も慌てることなく自分のペースで箸を運んでおり、職員のかまやかな心遣いを感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報の共有・食事形態の工夫。毎食時・おやつじの各々の水分摂取量の確認と記録を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。本人のレベル低下により、全介助や半介助している。夕食後には義歯を洗浄剤につけて消毒している。ご自分で出来る方にはやって頂いている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をし排泄して頂けるよう支援している。	布パンツ、リハビリパンツにパット、オムツ使用など一人ひとりの排泄パターンに沿いながら支援が行われている。日中はトイレでの排泄でも夜間のみポータブルトイレを使う方、夜間でも自力でトイレに行く方もいる。足どりが不安定な方には付き添っている。排泄支援ではどんな状況であっても恥ずかしい思いが生じないように配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し本人の排便コントロールの状況に合わせて下剤の服用あり。また食事摂取量と水分摂取量の観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿った入浴が出来るよう健康状態や事故防止に気をつけながら、出来るだけゆっくり入浴できるよう見守っている。	入浴日(月・木)は決まっているが希望があれば準備し入浴していただいている。6名の方は洗髪を含め背中以外は自分で身体を洗うことができる。浴槽が4方向から介助できるようになっているので3人介助で入浴する方もいる。拒む方もいるが、週一回は入浴できており、無理な場合は着替えをしている。家族と温泉に出かける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを作り、一人ひとりの体調や希望に考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援する。また寝つけない・不安な気持ちがあるときには、話しをしたり、添い寝をしたりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認することができる。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のないように与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりの出来る事を見出し、お願い出来る仕事を頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・本人の体調や気分によって近所への散歩や車で外食に出かけている。	日常的には敷地内やホーム周辺を散歩している。利用者は玄関先のベンチに腰掛て、馴染みの里山や遠くのアルプスを眺めては「山が色づいた」、「山が白くなった」と移り行く自然を眺めている。年2回、利用者と職員で希望のものを食べに出かけている。行事外出ではお弁当を持って公園へお花見に出かけたり、松本城見学にも出かけている。車椅子の利用者も一緒に出掛け楽しんでいる。	

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金をお預かりし、事業所が管理している。またお小遣い帳にて収支の管理も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書ける方には希望に沿えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので、調理している姿が見えたり、匂いを感じることができる。また食事作りを手伝って頂く時もある。	玄関からバリアフリーで共有スペースは床暖となっている。食堂兼居間の中央には年代を感じさせる大黒柱、天井には明り取り用の天窗が2ヶ所ある。壁には神棚、その下に沢山のスナップ写真や利用者の作品が掲示されている。大きめなサンタクロースの動く人形も置かれクリスマス気分を盛り上げ、ラジオからも適度な音量で曲が流れていた。避難口にもなっている畳の居間には洗濯物が吊るされ、利用者のアイドル犬であるシーズ犬のダイ君が気持ちよさそうに寝そべっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがあり、小さな座卓があり、冬場は炬燵が置かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者の使い慣れた馴染みのあるものを持ってきてもらうようお話している。布団もご本人の物を持ち込んで頂いている。	食堂を囲むように各居室が並んでいる。誕生日カードが置かれ、運動会の賞状と金メダルが壁に掛けてあった。ダンス、衣装ケース、時計、テレビ、リクライニング椅子、家族写真、仏壇なども持ち込まれている。利用者一人ひとり、馴染みの物、大切な物に囲まれて気分良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでホール内・トイレ内には手すりがあり安全な環境の中で「できることを」やって頂いてる。		